

念願の単独出場 敗れて悔いなし 11人の稲沢東

昨秋と今春の地区大会で稲沢と連合チームを組んだ稲沢東が念願の単独チーム

選手は11人。「単独での

で出場し、初戦の福江戦に臨んだ。



試合に敗れ、相手校の校歌を聞く稲沢東の選手ら＝一宮

公式戦は主将になって初めて。勝つことだけを考えていた」と椎葉唯人主将(3年)。バスケットボール部などから3年生2人の助っ人と1年生の新入部員2人を迎え、今大会を目指してきた。

試合は四回まで0-0。エースの大川喬史君(2年)が丁寧な投げ、守備陣も併殺を取ってもり立てた。だが中盤以降、肩を痛めていた大川君、救援した椎葉君が攻略された。「負けたのは悔しい。でも稲沢東として試合できてうれしかった」。そう話す椎葉君の目に涙はなかった。

(荻野好弘)

朝日新聞社に無断で転載することを禁じる
承諾番号 19-3185